

2026年度本試験分析

試験時間:70分 / 配点:100点

- 各大問の前半は知識・技能を問う内容が多く、手早く確実に処理することが前提となる。後半は「問題解決に向けて構想・見通しを立てること」「解決過程を振り返るなどして概念を形成・体系化すること」を問われ、思考力・判断力が要求される。
- 第1問で図形と方程式が出題されるなど、分野や題材の変化は見られたが、出題方針や求められる能力は特に変化がなかった。
- 第1問(2)(iii)(iv)、第3問(1)(ii)・(2)、第6問(3)(ii)、第7問(2)(ii)・(3)(ii)など、図形や領域、グラフの概形を選択させるような、数式や条件が意味するところの深い理解を問われる問題が多く見られた。
- 第2問:冒頭で三角関数の加法定理から公式を導き、それを利用して関数の最大値を求める問題であった。前問までの結果を踏まえて考察を深めていく構成は共通テストの特徴の一つと言える。
- 第7問:複素数平面をベースとしつつ、後半では2次曲線の内容も問われる構成で、「複素数平面」「平面上の曲線」の両方について理解していることが求められた。一方の対策を疎かにしていた人には影響が出ただろう。
- 2025年度にあった運動型(前の問題が正解のときのみ、採点対象になる)の採点単位間は2026年度も見られた。配点は1点から4点の間であり、そのうち2点の問題が多くを占め、採点単位間数も多い。

2027年度共通テストにむけて

- 共通テストでは、大問の前半で正答を得られていても前問までの解決過程の振り返りを意識できていないと時間を費やしてしまうことがよく見られる。大問の後半の思考力・判断力を要する設問に対応するためにも、正答を得ただけで満足するのではなく「もっと工夫して効率よく計算できないか」「この結果をもとに、何か新しいことが言えないか」のように掘り下げて考える習慣を普段の学習から身につけておきたい。
- 高得点を目指すのであれば、本番よりも高いレベルの問題での演習が必要。11月までは、時間を気にせず、上記を意識して解いてみる。12月以降は、どの問題を先に手を付けるのかなど、時間を意識した演習をするなど、時期や目標に合わせて使用の仕方を変えて演習を進めるのもよい。
- 共通テスト対策書籍を利用するときも、「正答を得られた問題であっても必ず解答解説を確認すること」「時間内に解けなかった問題も解答解説を見る前に解いておくこと」が特に重要となる。試験時間内で解答する演習だけでなく、じっくりと考えた上で詳しい解答解説で振り返る時間を設けられるとよい。

2026年度本試験

平均点 54.52点

大問	分野	テーマ	平均得点率
1	図形と方程式	2点で交わる2円と、その交点を通る直線とで分けられる領域について考察する	56.17%
2	三角関数	三角関数の公式を利用して、関数の最大値を求める	50.25%
3	微分・積分の考え	3次関数のグラフの概形、および面積について考察する	62.47%
4	数列	階差数列を利用して、一般項や和を求める	50.56%
5	統計的な推測	ある地域で実施した資格試験を題材とした確率分布について考察する	44.80%
6	ベクトル	三角形を題材として位置ベクトルについて考察する	56.05%
7	平面上の曲線と複素数平面	複素数で定義された式が描く図形について考察する	56.96%

2025年度本試験

平均点 51.56点

大問	分野	テーマ	平均得点率
1	三角関数	三角関数の方程式の解を求める	50.83%
2	指数関数・対数関数	対数の性質や常用対数表を利用して、水草が水面を覆う面積を考察する	53.42%
3	微分・積分の考え	導関数が等しい二つの3次関数の増減、グラフの概形について考察する	61.66%
4	数列	座標平面上の領域に含まれる格子点の個数を求める	46.86%
5	統計的な推測	ある地域で収穫されるレモンの重さを題材とした確率分布の問題	36.95%
6	ベクトル	座標空間において、球面上の3点を結んでできる三角形が正三角形になる条件について考察する	49.14%
7	複素数平面	複素数平面上の3点A(α)、B(β)、C(γ)に対して、2直線AB、ACが垂直に交わるための条件について考察する	54.09%

2024年度本試験

平均点 57.74点

大問	分野	テーマ	平均得点率
1	[1] 指数関数・対数関数	対数関数のグラフや対数方程式の表す図形、対数不等式の表す領域について考察する	62.92%
	[2] いろいろな式	整式を2次式で割ったときの余りが定数になる条件を考察する	60.85%
2	微分・積分の考え	2次関数のグラフと、定積分を用いて表された関数のグラフの関係について考える	55.45%
3	確率分布と統計的な推測	晴れの日についての確率分布を考察する	19.77%
4	数列	ある漸化式をみたす数列の性質を探る	63.24%
5	ベクトル	座標空間における線分の長さの最小値を求める	53.01%

2027年用 パワーマックス共通テスト対応模試

編集方針

次の点を意識して制作しています。

- 2026年度本試験・追試験を踏まえて、今年度出題が想定される内容を幅広く扱うことで、どのような出題であっても動じることなく解き進める力を養います。
- 解答解説において、数学が苦手な生徒が読んだときにわかりにくそうな部分には説明を追加し、一人でも無理なく学習できるように配慮しています。
- 解答解説において、問題で省略されている計算部分の説明や研究内容も紹介し、数学が得意な生徒が発展的な学習ができるようにしています。



改訂のポイント

●分量・難易度

2026年用の利用者の正答率も踏まえて、各回の分量・難易度を適切に設定しました。2026年度本試験・追試から分量・難易度が変化する可能性を踏まえて、各回の分量・難易度は一律にしていません。

●いろいろな式

2026年度追試では「いろいろな式」から複素数と2次方程式に関する問題が出題されました。今後この分野から出題される可能性を鑑み、本教材での「いろいろな式」の問題の回数を増やしました。

●新作の問題

2026年度本試験・追試の出題内容を踏まえて、2026年用のパワーマックスから約2回分の問題を差し替えています。

●平面上の曲線と複素数平面

2026年度本試験は中間なして「複素数平面」と「平面上の曲線」との融合問題、2026年度追試は中間なして「平面上の曲線」の問題が出題されました。いろいろな出題が想定されるので、平面上の曲線のみ、複素数平面のみ、両方を含めたもの、それぞれが独立した出題である中間構成など、様々なパターンを扱っています。

数学II・B・C×8



定価
1,045円(税込)
B5判

問題編272ページ
別冊解答・
解説編144ページ

6月発刊

模試8回分を収録

数学II・B・C×5



定価
902円(税込)
B5判

問題編168ページ
別冊解答・
解説編96ページ

6月発刊

模試5回分を収録

『パワーマックス共通テスト対応模試×8』の第1回～第5回と共通の問題です。

数学II・B・C ハーフ+フル



定価
1,045円(税込)
B5判

問題編272ページ
別冊解答・
解説編168ページ

6月発刊

ハーフサイズ模試12回分+フルサイズ模試2回分を収録

『パワーマックス共通テスト対応模試×8』と共通の問題です。

表紙デザインは変更する場合があります

採用特典

▶P.41-42



Webダウンロード
本文データ

納品形態

▶裏表紙

問題・解答ともバラシA可

学習診断サイト

▶P.39

パワーマックス 出題一覧

2027年用パワーマックス数学II・B・Cに収録されている、おすすめ問題を「共通テスト対策教材特設ページ」にてご紹介!

特設ページはコチラ



■: 新作・改題を含む大問

第1回

大問	分野	テーマ	難易度
1	三角関数	$r\sin(\theta+\alpha)$ の形に変形できる式の条件を調べる	易
2	いろいろな式	逆数(相反)方程式の解の個数について考える	標準
3	微分・積分の考え	3次関数のグラフと直線で囲まれた図形の面積を、平行移動を利用して求める	標準
4	数列	分数型および1次の項がある漸化式の解法について考える	やや易
5	統計的な推測	入試の得点調整について考える	やや難
6	ベクトル	三角形の内角と外角の二等分線について調べる	やや難
7	平面上の曲線と複素数平面	楕円の法線が楕円上の点と焦点でできる角を二等分することを証明する	標準

第2回

大問	分野	テーマ	難易度
1	指数関数・対数関数	桁数と上2桁の数について考える	やや難
2	三角関数	内角の一つが直角である多角形の辺の長さについて考える	やや難
3	微分・積分の考え	定積分を用いて表された関数の増減を調べる	標準
4	数列	$a_{n+1}=pa_n+f(n)$ 型の漸化式の解法について考える	標準
5	統計的な推測	ゲームのクリア時間について、仮説検定と推定をそれぞれ用いて考察する	標準
6	ベクトル	四面体において、ある四つの直線が1点で交わるかを調べる	やや難
7	平面上の曲線と複素数平面	複素数平面上の点の軌跡について考える	標準

第3回			
大問	分野	テーマ	難易度
1	いろいろな式	多項式を n 次式で割ったときの余りについて考える	標準
2	図形と方程式	円と直線、円と放物線が接する条件を考える	易
3	微分・積分の考え	3次方程式の実数解の個数を調べる方法について考える	やや易
4	数列	ある製品の毎年の製造量の変化を捉える	やや難
5	統計的な推測	化学物質に含まれる不純物の質量について考える	やや難
6	ベクトル	二つの正 $2n$ 角形からなる図形について、ベクトルを用いて考える	標準
7	[1] 平面上の曲線と複素数平面	放物線の極方程式を用いて、ある図形量について考察する	標準
	[2] 平面上の曲線と複素数平面	複素数平面上の単位円に内接する正五角形の頂点を表す複素数について考える	標準

第4回			
大問	分野	テーマ	難易度
1	三角関数	2変数関数の最大値を三角関数を用いて求める	標準
2	指数関数・対数関数	常用対数の近似値を求める	標準
3	微分・積分の考え	定積分を用いて表された関数のグラフについて考察する	やや難
4	数列	規則的に積み上げた箱に書かれた数を階差数列を用いて求める	やや難
5	統計的な推測	ある症状の発症のしやすさについて、仮説検定と推定をそれぞれ用いて考察する	やや難
6	ベクトル	四面体の体積を2通りの考え方で求める	やや難
7	平面上の曲線と複素数平面	複素数の方程式の表す図形について考える	やや難

第5回			
大問	分野	テーマ	難易度
1	指数関数・対数関数	指数関数を含む方程式の異なる実数解の個数を求める	やや易
2	三角関数	不等式の解を求める	やや難
3	微分・積分の考え	二つの放物線の共通接線について考える	易
4	数列	数列の隣り合う二つの項の差の形を利用して、数列の和を計算する	易
5	統計的な推測	池の環境保全のための調査結果を検討する	やや難
6	ベクトル	ベクトル方程式を満たす点について考える	やや難
7	[1] 平面上の曲線と複素数平面	方程式が表す図形の概形について考える	標準
	[2] 平面上の曲線と複素数平面	3点 z 、 z^2 、 z^3 を頂点とする三角形が二等辺三角形になる条件について考える	標準

第6回			
大問	分野	テーマ	難易度
1	三角関数	三角関数の値の大小関係について考える	やや難
2	指数関数・対数関数	音楽のテンポ変化について考える	やや難
3	微分・積分の考え	3次関数のグラフの移動と共通接線について考える	やや難
4	数列	条件つき文字列の総数についての漸化式を求める	やや難
5	統計的な推測	収穫した梨について、仮説検定と推定をそれぞれ用いて考察する	標準
6	ベクトル	座標空間におけるベクトルの垂直について考える	標準
7	平面上の曲線と複素数平面	複素数平面上の直線について考える	難

第7回			
大問	分野	テーマ	難易度
1	図形と方程式	複数業者から購入するとき、支払いを最も安くする方法を考える	やや易
2	三角関数	三角関数を含む連立方程式の解について考える	標準
3	微分・積分の考え	道のりを面積で考える	やや易
4	数列	数列の一般項から漸化式をつくる方法を考える	やや難
5	統計的な推測	今年のジャガイモの収穫について考察し、過去のデータと比較する	標準
6	ベクトル	座標空間の四面体の体積を求める	やや難
7	[1] 平面上の曲線と複素数平面	複素数の n 乗の値とその複素数が表す図形について考える	やや難
	[2] 平面上の曲線と複素数平面	パラボラアンテナの性質を証明する	やや難

第8回			
大問	分野	テーマ	難易度
1	三角関数	三角関数を含む不等式が表す領域を考える	易
2	指数関数・対数関数	天体の明るさを比較する	標準
3	微分・積分の考え	ある曲線と平行移動した曲線について、共有点と囲まれた図形の面積について考える	やや難
4	数列	2種類の細胞の増え方について、漸化式を用いて考える	やや易
5	統計的な推測	ある学校における公共交通機関の利用状況について分析する	標準
6	ベクトル	立体の辺上を動く2点の距離の最小値を求める	標準
7	平面上の曲線と複素数平面	双曲線と直線の共有点について考える	易